



令和2年が始動しました。出初め式や成人式も終わり、1月の13日を中心に市内の各地で小正月の行事の一つ、どんど焼き(道祖神祭り)が行われました。私もいくつかのどんど焼き



に参加しましたが、どこの地区も子ども会育成会などを中心ににぎわっていました。多くの人たちが、やぐらを取り囲んで繭玉やお餅、スルメなどを竹の棒の先につけて、顔を真っ赤にしてあぶっていました。

周りで取り巻いて見守ってくださった消防団員の皆さんにも感謝です。大きな鍋で作り振る舞われる甘酒やけんちん汁は、どんど焼きの定番です。私も甘酒を片手に、燃え上がる松や竹、両目の入っただるまを見ながら、災いのない良い1年になるよう祈りました。

小正月の行事は、ほかにも「繭玉」や「搔花」を飾り、豊作と家内安全を祈る風習があります。私も子どもの頃、家に飾ったことを覚えています。

小正月は、大正月に忙しく働いた主婦を「お疲れ様でした」とねぎらう意味で「女正月」という地方もあるそうです。今は、小正月という言葉はあまり使わなくなりましたが、華やいだ大正月に比べ、落ち着いた小正月もよいものです。こうした伝統を残し伝えていきたいものです。

“冬来たりなば春遠からじ” 暖かな春を待つ一日一日を元気に過ごしましょう。